

研究協力のおお願い

この研究は、大阪医科薬科大学 研究倫理委員会にて審査され、研究機関の長の許可を受けたうえで実施しております。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

大阪医科薬科大学 医学部 衛生学・公衆衛生学教室

記

研究の名称	JPOSコホート研究を用いたサルコペニアの判定に有用な骨格筋量指標の探索：指極を用いた検討
対象	「骨粗しょう症性骨折の予防のための疫学調査」(Japanese Population-based Osteoporosis コホート研究)として2015年8月20日から2017年7月17日に行った追跡調査に参加された方のうち、調査時に65歳以上だった方が本研究の対象です。調査を行った場所は香川県さぬき市、沖縄県宮古島市、福島県西会津町、新潟県上越市、北海道芽室町です。
研究期間	研究実施許可日(2022年7月12日) ~ 2025年3月31日
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的：加齢による筋肉減少を呈するサルコペニアを判定する際、両腕・両脚の筋肉量(四肢骨格筋量)を身長 ² で除した値が使われています。この値と握力等が基準を下回るとサルコペニアと判定されます。しかし、加齢により身長が短縮すると、この値は大きめに算出されるため、サルコペニアと判定されづらくなる可能性があります。一方、両腕を左右に広げた時の左右の指先同士の距離(指極)は、若年成人期に身長とほぼ同じ長さになり、加齢による変化が少ないことが知られています。そのため身長の短縮した者においては、四肢骨格筋量を

	<p>指極の2乗で除した値の方が、サルコペニアの判定に有用である可能性が あります。また、米国ではサルコペニアの診断に際して、四肢骨 格筋量をBMI（肥満度を表す体格指数。体重/身長²）で除した値が使 われていますが、日本人での検討はあまり報告されておりません。</p> <p>本研究では、「骨粗しょう症性骨折の予防のための疫学調査」で過去に測定させ ていただいたデータを活用して、下記の解析を行います。</p> <p>利用方法： 四肢骨格筋量を身長²、指極²、BMIで除した値の各々を用 いてサルコペニアを判定し、サルコペニアに該当する者の割合を算 出します。</p> <p>身長が指極より2-4cm以上小さい場合に身長が短縮していると見な し、身長が短縮しているか否かによってサルコペニアに該当する者 の割合が異なるかを検討します。</p> <p>研究結果は学会や論文にて公表予定です。</p> <p>対象者の方（あるいは代理人）のお申し出により、他の対象者等の個人情報保 護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究に関する資料を入手・閲覧 できますので、ご希望の際は下記の問い合わせ窓口へご連絡ください。</p>
<p>利用し、又は提供 する試料・情報の 項目</p>	<p>試料：なし</p> <p>情報：「骨粗しょう症性骨折の予防のための疫学調査」として1996年に収集した 指極、2015-2017年に収集した年齢、身長、体重、筋肉量、握力、歩行速 度、骨折の状況</p>

研究者名

【研究責任者】

医学部 衛生学・公衆衛生学

教授

玉置 淳子

参加拒否のお申し出について

ご自身の情報を研究に利用されることへのお問い合わせや参加拒否のご連絡は、下記の連絡先までお願いいたします（対象者の代理人からのお申し出も受付いたします）。参加拒否のお申し出を頂いた場合は、研究の対象から除外し、研究で利用いたしません。しかしながら、学会や論文で研究結果を公表した後の参加拒否のお申し出については、公表した結果から削除することができかねますので、あらかじめご了承ください。

<問い合わせ窓口>

【研究機関】

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

大阪医科薬科大学 医学部 衛生学・公衆衛生学教室

担当者 津田 晃司

連絡先 072-683-1221（代） 内線 2651

研究参加拒否書

大阪医科薬科大学 学長 殿

大阪医科薬科大学

研究責任者 玉置 淳子 殿

研究の名称	JPOSコホート研究を用いたサルコペニアの判定に有用な骨格筋量指標の探索：指極を用いた検討
-------	-----------------------------------------------

私は、上記研究への参加について検討した結果、研究参加を拒否いたします。

年 月 日 対象者 住所

氏名（自署）

ご本人が自署できない場合は、代諾者の方がご記入ください。

代諾者（続柄： ）

住所

氏名（自署）